

平成27年度 小千谷市社会科部 活動報告

部長 堀川 章

1 研究主題

- 学習指導要領（社会科）の趣旨を活かした授業改善に取り組む。

2 研究の実際

（1）授業改善の視点をもった指導案作成（学年別グループ研修）

- 各グループの「単元名」と「授業改善の視点」

＜第2学年グループ（生活科：4人）＞

単元名【まちを探検 大発見】

- ・地域を見直したり、他の地域へと目を向けたりしながら、学区への興味を深めさせる。

＜第3学年グループ（社会科：3人）＞

単元名【わたしたちの大好きなまち】

- ・地域に発信するという意識をもたせる。

＜第4学年グループ（社会科：4人）＞

単元名【健康なくらしとまちづくり】

- ・水の使用量について考え、自分との関わりについて関心を高める。

＜第5学年グループⅠ（社会科：3人）＞

単元名【工業生産を支える人々 自動車づくりに励む人々】

- ・見学や体験が難しい単元について簡単な疑似体験を取り入れ、より主体的に取り組めるようにする。

＜第5学年グループⅡ（社会科：3人）＞

単元名【1台の車ができるまで】

- ・資料の読み取りの習得（指導）

＜第6学年グループ（社会科：4人）＞

単元名【自由民権運動が広まる】

- ・武士、町民や農民の視点に寄り添う。時代の流れを大切に扱う。



（2）指導案の共有と自校における実践（全体並びに個人研修）

- ※改善の視点を中心に発表。質疑を通して共有。自校にて実践。

（3）代表者による公開授業

＜公開授業「第5学年：工業生産を支える人々」＞

- 授業改善の視点から見た本単元の価値

- ・地震を克服した地域の工場の教材化
- ・資料を関連付けた新たな解釈を考えさせる場の設定
- ・ペアで自他の考え方について話し合う活動の組織

- 本時のねらい

- ・エヌエスアドバンテックが地震の被害にあっても部品を送ることができた理由について考える活動を通して、復旧のために働いた人々の工夫や努力、思いを理解し、工場同士の結びつきに気付く。



3 成果と課題

- 学年別グループごとに目的意識をもった話し合いができたため、作成した指導案を参考に、各自の実践に生かすことができた。また、3～4人のグループを組んだことで、活発な意見交換ができた。

- 部会の時間がさらに長いと、より充実した話し合いを行うことができる。